

氏名： 戸谷 陽子 (TOTANI Yoko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 文学修士 (M.A.in English Literature) / M.F.A.in Theatre Arts (芸術学修士)
専門分野： 舞台芸術論、パフォーマンス研究、アメリカ演劇、
アメリカ文学、文化政策、比較演劇
E-mail： totani.yoko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

舞台芸術論 / パフォーマンス研究 / アメリカ演劇 / 文化政策 / 比較演劇論
Performing Arts Theory / Performance Studies / American Theatre / Cultural Politics /
Comparative Drama

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・古典の条件 — 『わが町』に見られる普遍主義の検討
- ・ニューヨークの都市空間と文化政策

◆研究内容 / Research Pursuits

1. 科学研究費助成による研究「アメリカ演劇の理論と実践におけるリベラリズムと民主主義の問題：冷戦以降の再検討」に着手、戦後アメリカの文化政策とセクシュアリティの配備という観点から調査・研究を進めた。
2. 長年の研究課題であるガートルード・スタインの周辺研究として、劇作家ソーントン・ワイルダーとスタインについて学会シンポジウム（「Our Townを読み解く — 歴史と普遍、固体と永遠」）にパネリストとして出席。「古典の条件 — 『わが町』に見られる普遍主義の検討」というタイトルで発表。（全国アメリカ演劇研究者会議 2008 年全国大会）

Topics of research conducted and titles of conference papers are:

1. (Grants-in-Aid for Scientific Research, Japan Society for the Promotion of Science): Theory and Practice of Liberalism and Democracy in American Theatre: Reconsidering the Cold War Cultural Politics
2. (Panelist) Symposium: Reading Thornton Wilder: history, universality, solidity and eternity (National American Drama Conference, June 2008, at Escale Yokohama)

◆教育内容 / Educational Pursuits

1. 学部教育：全学部対象コア科目英語、基礎ゼミ、英語圏言語文化コース学生対象の専門科目（英語圏テキスト講読、英米文学演習）を担当、パワーポイントなどを使用して視聴覚教材を作成し、立体的な授業を心がけている。このほか卒論指導として3名の学部学生の個人指導を担当。
Conducted lectures and classes in the 07-08 academic year include:
 1. Intermediate English for freshmen and sophomores.
 2. World Literature for freshmen and sophomores.
 3. English and American Literature Seminars for undergraduate English major students.
 4. Seminars for graduate students to study American theatre and its theory.
2. 大学院教育：アメリカ演劇関連の科目（米文学演習）を担当、また修士論文の個人指導および博士後期課程学生の個人指導。
In addition to teaching, the following contributions were made:
 1. Supervising B.A. and M.A. theses.
 2. Consulting and advising undergraduate students taking Core Curriculum English classes.
 3. Coordinating Core Curriculum English Program and carrying out orientation programs for freshmen as well as senior students.
 4. Supervising senior English major students as their homeroom teacher.
3. その他、語学センター委員として、全学部の英語科目のオリエンテーション、クラス編成、とくに履修相談・指導に膨大な時間と労力をかけている。
4. 言語文化学科英語圏言語文化コース4年生担任として、コースの教務連絡、留学生の履修や学生生活に関する相談・指導。

◆研究計画

2007年度より4年間、科研費助成により「アメリカ演劇の理論と実践におけるリベラリズムと民主主義の問題：冷戦以降の再検討」と題する研究を行う。本年度は戦後アメリカの文化政策とセクシュアリティの配備という観点から調査・研究を進めており、今後は「政治的リベラリズムの演劇：マッカーシイズムとアメリカニズム」「文化的リベラリズムの芸術家たち：前衛演劇とマイノリティ演劇」「民主主義と共同体の演劇：グローバルとローカル」をテーマに1年ごとに調査・研究を行い、冷戦期以降のアメリカ舞台芸術における意識の分布図の変化を考察、総括する。さらにこの研究を発展させ、グローバル化の進む表象文化空間における表象のポリティクスを舞台芸術を対象に行う予定。

共同研究の可能性としては、「文化芸術助成財団・研究機関等と舞台芸術と文化政策の実践的共同研究」「各国演劇研究者等と舞台芸術の国際コラボレーションに関する実践的共同研究」といった、実践および文化政策等社会的に還元しうる研究を目指したい。

◆メッセージ

今日IT化、グローバル化の時代にあって、知や情報を手にすることは容易に可能になりました。したがって、大学でそれ自体を学ぶことは、以前と比べるとさして重要な価値ではなくなったといえるかもしれません。みなさんには、インターネットで検索して得られる知や情報ではなく、知の集積する大学という空間で、それをいかに有効に活用するか、そしていかに発信するか、実際の技術的な訓練はもちろん、そのための深い思考力と想像力を鍛錬してほしいと願っています。グローバル化の時代、さまざまな立場や価値観が拮抗する社会にあって、わたくしたちが知識や情報のみでは解決できない複雑な問題に直面する時に、この思考力と想像力が、そしてそれを備えたみなさんのような人材が必要とされていると思うからです。